様式第3号

自己評価報告書（最終報告）

報告者	言語系コース（国語） ／茂木　俊伸

■平成24年度の目標に対する自己点検・評価

Ⅰ．学長の定める重点目標

Ⅰ－1．科研費申請に向けた計画等

国立大学法人運営費交付金は年々削減され，教員の研究費配分も厳しくなってきており，教員各自が研究のための外部資金を獲得しなければならない状況である。そこで，科研費申請に向けて，あなたが考えているテーマと計画等について示してほしい。

1．目標・計画

○これまで推進してきた外来語研究の成果に基づく形で，外来語の記述に関する課題を若手研究(B)で申請する。

2．点検・評価

○目標に掲げたとおり，外来語の記述に関する課題（若手研究(B)）の新規申請を行った。

Ⅰ－2．大学院学生定員の充足に向けた取り組み

専攻・コースのこれまでの大学院学生定員の充足状況を踏まえた上で，あなたは定員充足のためにどのような取り組みを行うか，具体的に示してほしい。

1．目標・計画

○学会等の個人的なつながりを活かし，小学校教員志望者にパンフレットを送付する等の宣伝に努める。
○運営を担当するコースのウェブページの情報を充実させ，情報発信を積極的に行う。
○学外の留学生からのコンタクトに誠実に応える。

2．点検・評価

○学外の教員志望者の訪問1件に対応した。また，他大学を訪れた際に学部生に本学大学院の宣伝を行った。
○コースのウェブページを年間30回更新し，入試や説明会の情報，学生の活躍に関する記事を掲載するなど，情報発信に努めた。
○留学生の本学留学に関して，学外からの問い合わせ3件，学内教員からの相談1件に対応した。

Ⅱ．分野別

Ⅱ－1．教育・学生生活支援

1．目標・計画

○講義内容に対する学生の疑問を適宜すくい上げながら，国語学の知識・思考法の定着を図る。
○日常的な学習活動を促進するために，言語生活に関するトピックを授業で積極的に取り上げるとともに，授業中の機会や個人ウェブページを利用して，関連図書・資料の紹介を行う。
○学生との間にハラスメント行為等のない良好な関係を構築し，問題解決のための支援を行う。

2．点検・評価

○主として学部の授業で質問用紙（講義科目）と事前指導制度（演習科目）を活用して受講者の質問・意見をすくい上げ，国語学の知識・思考法の定着を図った。
○学生の言語生活に即した話題を授業で取り上げるとともに，学内の個人ウェブページに参考文献リストを掲載し，学習内容を発展させるための図書の紹介を行った。
○関連領域の担当教員間で連携をとり，学生用の図書の計画的な購入・配架を行った。
○ゼミ（学部生4名，大学院生3名）の指導教員として，学習・研究指導や生活指導，就職支援等，個々の学生に合わせたサポートを行った。また，模擬面接や論作文指導等を通じて，就職関連の支援を積極的に行った。
○3年生クラス担当教員代理として，学生指導を積極的に行った。また，学生総合相談室相談員（アドバイザー）を務めた。
○学部オープンキャンパスの模擬授業を担当した。

Ⅱ－2．研究

1．目標・計画

○専門分野である現代日本語の文法・語彙に関する研究を引き続き行い，成果を公表する。
○共同研究に積極的に参画し，研究者としての役割を果たす。
○現在助成を受けている科学研究費の課題研究を推進するとともに，次年度の補助金を申請する。

2．点検・評価

○現代日本語の文法・語彙に関する研究を行い，著書1冊（共著）と海外査読論文1編，国内雑誌論文1編，紀要論文1編，口頭発表1回の形で成果を公表した。
○本学における授業実践をまとめ，紀要論文1編（共著，2013年5月発行予定）と口頭発表1回の形で成果を公表した。
○国立国語研究所共同研究プロジェクト（基幹型）「コーパス日本語学の創成」の共同研究員として研究活動を行った。
○国立国語研究所共同研究プロジェクト（領域指定型）「学習者コーパスから見た日本語習得の難易度に基づく語彙・文法シラバスの構築」の共同研究員として研究活動を行った。
○科学研究費補助金（若手研究(B)）の研究を推進し，紀要論文1編およびウェブ上の文献目録（664編収録）として成果を公表した。また，次年度の新規申請を行った（Ⅰ－1参照）。

Ⅱ－3．大学運営

1．目標・計画

○各種委員会の委員として会議に出席し，その職務を遂行する。
○円滑な大学運営が遂行できるよう，コース・教育部・大学への協力を行う。

2．点検・評価

○予算・財務管理委員会委員および大学機関別認証評価WG委員の職務を遂行した。
○学生総合相談室相談員（アドバイザー）の職務を遂行するとともに，県主催の講習会に参加した。
○コース会議および教育部会議に出席し，校務に協力した。コースにおいては，予算管理，ウェブページ管理，広報等を含む8つの事務的職務を滞りなく果たした。

Ⅱ－4．附属学校・社会との連携，国際交流等

1．目標・計画

○附属学校と連携をとりながら，積極的に協力・意見交換等を行う。（附属学校）
○「教育支援講師・アドバイザー等派遣事業」に登録し，地域からの要請に応える。また，「公開講座」の運営に参加する。（社会連携）
○各学会委員としての責務を果たす。（社会連携）
○協定校からの短期留学生の指導・サポートを行う。（国際交流）

2．点検・評価

○連絡協議会（年2回）および実地教育時の訪問等を通じ，附属学校園との連携に取り組んだ。また，附属小学校教育研究会で共同研究者を務めた。（附属学校）
○鳴門教育大学教育支援講師・アドバイザー等派遣事業に登録した。また，徳島県生涯学習情報システム「まなびーあ人材バンク」に登録した。（社会連携）
○公開講座（2012年6月）を共同担当した。（社会連携）
○日本語学会庶務委員・情報電子化委員，日本語文法学会学会誌委員の役割を果たした。（社会連携）
○依頼を受け，学会誌の論文査読7件を担当した。（社会連携）
○留学生4名（学部特別聴講学生）の指導教員として，学習・研究・生活の指導およびサポートを行った。（国際交流）

Ⅲ．本学への総合的貢献（特記事項）

○文部科学省特別経費（プロジェクト分）「教員養成モデルカリキュラムの発展的研究」に教科専門科目担当者として協力した。